

第4節 持続可能な社会を支える人づくり

〈主な指標と最新実績（2026[令和8]年3月末）〉

動く環境教室受講者数：	5,970人
環境アドバイザー登録者数：	383人
森林環境教育参加者数（県主催）：	2,963人
森林環境教育指導者数：	129人

第1項 環境学習の推進

1 動く環境教室の推進 【環境政策課】

「動く環境教室」は、環境学習に必要な機材を搭載した移動環境学習車「エコムーブ号」と、県が育成した環境学習サポーター（講師）が小・中学校等に出向き、水、ごみ・リサイクル、温暖化、SDGsをテーマに、実験や体験活動を交えながらわかりやすく環境について学ぶことができます。

地球温暖化をはじめ、水の汚れなどを調べるほか、リサイクルに関する教材でごみの分別を体験しています。

2025（令和7）年度は、第25回ぐんま環境フェスティバルなど様々なイベントにも出展しました。

表2-2-4-1 動く環境教室開催状況

区分 \ 年度	R3	R4	R5	R6	R7
件数	45	73	84	89	92
人数	2,283	3,425	3,796	5,373	5,970



動く環境教室の様子

2 環境学習サポーターの育成 【環境政策課】

環境学習サポーターは主に「動く環境教室」において講師を務めます。

「動く環境教室」の幅広い学習分野の知識を習得するための座学や、子どもたちの興味を引きつける話し方、学習の流れを踏まえた実験の仕方など、体験的な学習を行動へ結びつけるための研修を行っています。

また、「ぐんま環境学校」（エコカレッジ）において、「動く環境教室」の実習をカリキュラムに組み込み、環境学習サポーターの育成を行っています。

初代エコムーブ号を導入した2001（平成13）年度から「動く環境教室」を開始し、2003（平成15）年度から環境学習サポーターが講師を務めており、2025（令和7）年度は58名の方を環境学習サポーターとして登録しています。

表2-2-4-2 環境学習サポーターの人数（単位：人）

区分 \ 年度	R3	R4	R5	R6	R7
人数	45	38	41	42	58

3 ぐんま環境学校（エコカレッジ）の推進

環境学習や地域の環境活動に自ら進んで取り組むことができる人材を養成するため、環境問題に関連する幅広い分野のカリキュラムによる「ぐんま環境学校」(エコカレッジ)を実施しています。

2025（令和7）年度は、6月から12月にかけて講義やワークショップ、フィールドワークを実施しました。受講者は、SDGsや気候変動、環境学習、「ぐんま5つのゼロ宣言」、廃棄物対策などに関する講義や、森林ボランティア体験会を通して、知識を深めるとともに今後の活動への意欲を新たにしました。

修了者は、原則として群馬県環境アドバイザーに登録されるとともに、「動く環境教室」の環境学習サポーターとして活躍している方もいます。

2026（令和8）年度も事業を継続し、講師や受講生相互の交流の場を設け、横のつながりを築けるように配慮しながら、環境活動に自ら進んで実践できる人材を育成していきます。



【環境政策課】

表2-2-4-3 修了者数の推移 (単位：人)

区分 \ 年度	R3	R4	R5	R6	R7
修了者数	15	8	10	34	25



ぐんま環境学校（エコカレッジ）の様子

4 環境アドバイザーへの登録、活動支援

【環境政策課】

環境保全活動の地域リーダーとして活躍する人材の育成・支援のため、1992（平成4）年度から群馬県環境アドバイザー制度を設けており、2025（令和7）年度末現在383名の環境アドバイザーが県に登録し活躍しています。

【環境アドバイザーの活動概要】

環境ボランティアとして、環境美化活動、地球温暖化対策、ごみの減量や再生可能エネルギー等、様々なテーマで活動しています。1999（平成11）年度から環境ボランティアに委託している「地域環境学習推進事業」も、主に環境アドバイザーが企画・立案・実施をしています。

また、環境アドバイザー相互のネットワーク作りのため、1997（平成9）年度に「群馬県環境アドバイザー連絡協議会」を設置しました。役員会・幹事会を随時開催し、重点活動内容について

協議するとともに、会報「グリーンニュース」の発行、専門部会・委員会（ごみ問題、温暖化・エネルギー、自然環境、広報委員会）の運営、地域ごとに活動する地域部会など「行動する環境アドバイザー」をスローガンに専門性を伸ばしながら、アドバイザー同士のつながりを意識した活動に取り組んでいます。

2025（令和7）年度には、環境アドバイザーが企画・運営して環境フォーラムを開催しました。各々がプレゼンテーション形式やポスター掲示形式により環境活動の事例を発表するとともに、お笑い芸人によるSDGsに関する講演を開催し、環境アドバイザー同士の交流を図りました。

表2-2-4-4 群馬県環境アドバイザー登録者数の推移 (単位：人)

区分 \ 年度	R3	R4	R5	R6	R7
登録者数	306	360	375	336	383

5 こどもエコクラブへの支援 【環境政策課】

こどもエコクラブは、幼児から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブです。一人以上の子どもと、子どもたちをサポートする一人以上の大人でクラブをつくることができ、県がこのクラブの活動を支援しています。

1995（平成7）年から環境省のバックアップのもと全国で取り組まれており、2011（平成23）年度から（公財）日本環境協会が運営し、毎年全国大会も開催されています。群馬県では1996（平成8）年からこどもエコクラブが結成されています。2025（令和7）年度の登録状況及び事業状況は次のとおりです。

2025（令和7）年度の登録状況

- クラブ数 178クラブ
- 会員数 1,315名
- サポーター 439名

ア 群馬県こどもエコクラブ学習会

2025（令和7）年9月6日（土）にサンデンフォレストで「おもしろ体験してみ隊」と題した県内エコクラブ合同の学習会を開催しました。県内のエコクラブなどから61名が参加して自然観察やクラフトを行い、各クラブの活動の活性化及びサポーター同士や県事務所との情報交換ができました。

イ 群馬県こどもエコクラブ交流会

2026（令和8）年1月10日（土）に前橋市児童文化センターで交流会を開催しました。各クラブによる活動発表や壁新聞の掲示、科学工作教室を行い、クラブ間の交流を図りました。

ウ 壁新聞の全国コンクールへの応募

県内6つの団体（イオンチアーズクラブ高崎（高崎市）、イオンチアーズクラブ太田（太田市）、前橋市児童文化センター環境冒険隊（前橋市）、エコクラブくわまる（伊勢崎市）、ECOクラブ

まるっと（高崎市）、はじまるキッズ（前橋市）が交流会で壁新聞を掲示し、うち3団体が2025（令和7）年度こどもエコクラブ「全国エコ活コンクール」の壁新聞部門に応募しました。そして、2026（令和8）年3月21日（土）に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）で「こどもエコクラブ全国フェスティバル2026」が開催されました。

表2-2-4-5 群馬県内のこどもエコクラブの変遷

区分年度	R3	R4	R5	R6	R7
クラブ数	41	96	152	164	178
メンバー数	762	1,077	1,161	1,279	1,315



交流会の様子



エコクラブくわまるの壁新聞

6 ぐんま緑の県民基金事業（森林環境教育指導者養成） 【林政課】

自然の解説者である「緑のインタープリター」を養成し、森林や緑とふれあう様々な自然体験活動を通して人間生活や環境と森林の関係について理解を深め、緑豊かな郷土づくりを推進します。

養成した緑のインタープリターは、小・中学生

を対象にしたフォレストリースクールや緑の少年団育成事業、ぐんま緑の県民基金事業の市町村提案型事業、森林観察会・自然講座などの森林環境教育の場で活動しています。

7 小・中学生のためのフォレストリースクール 【林政課】

県内の小・中学校の児童・生徒を対象に、森林や緑化の重要性を認識し、森林保全や環境保護への意識を高めるため、緑のインタープリターを派遣しています。講師は近隣の里山の自然観察や林業体験、校庭の樹木を生かした自然体験ゲームや

自然工作等を実施して、学校の授業を支援しています。

表2-2-4-6 フォレストリースクール参加者数 (単位:人)

年度	R3	R4	R5	R6	R7
参加者	2,086	2,810	3,097	3,016	2,963

8 緑の少年団育成 【林政課】

緑の少年団は、緑に親しみ緑を守り育てるなどの活動を通して、自然を愛し人や社会を愛する心豊かな人間に育てることを目的に、県内の小学校を中心に組織された団体で、現在308団体、約5万人の子どもたちが活動しています。

学校林の整備や森林の学習会、地域の施設へのプランターの寄贈や清掃活動等、学校や地域の実態に応じて様々な活動が展開されています。県では広くこの活動を支援し、森林環境教育を推進しています。

9 環境教育に係る教科等の優れた実践事例の蓄積と普及 【(教)義務教育課】**(1) 環境教育の実践事例の蓄積**

各学校で環境教育の充実を図るためには、各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間及び特別活動等それぞれの特質に応じて、児童・生徒、学校、地域の実態を踏まえながら環境に関する学習が行われるようにすることが重要です。

そこで県教育委員会では、小・中学校に対して、系統的な取組ができるよう、環境教育全体計画の作成、見直しをお願いしています。

また、県内の環境教育の特色ある取組を広く紹介するため、環境教育実践事例集「みんなの環境わたしたちの実践」を作成し、県総合教育センターのWebページに掲載しています。この実践事例集では、小学校・中学校・高等学校の優れた取組を1校ずつ紹介しています。

(2) 専門的な知識と指導力を備えた教員を養成する環境教育研修

今日、環境問題を解決し、持続可能な社会を構築していくためには、子どもたちの環境に対する意識を高め、一人ひとりが環境に配慮した行動をとれるようにしていくことが重要です。

そのため、県教育委員会では、国が主催する環境教育に関わる研修等の紹介や、総合教育センターにおける研修講座の実施を通して、環境教育に関する専門的な知識と児童・生徒への指導力を備えた教員を養成し、各学校における環境教育・環境学習の普及・推進を図っています。

10 教員向け研修講座（環境教育研修講座）の実施 【(教)総合教育センター】

県では、各学校において環境教育を効果的に推進できる教員を育成するため、全校種の教員を対象に「見る・触れる・体験する環境教育研修講座」を実施しています。2025（令和7）年度は、「森の博物館」と称される広大なブナ林を有する玉原高原において、多様な生態系への理解を深めるとともに、自然観察における「探究の視点」を醸成することを目的として開催しました。2025（令和7）年度は、自然散策を通して、受講者が自ら問いを見いだす「気付き」を促す研修として、教員が学校現場で実践できる主体的な環境教育の可能性を

探る機会としました。受講者数は想定を上回る申込みをいただきましたが、定員となる30名で実施しました。

始めに、玉原高原センターハウス前で研修のねらいを共有し、各自が観察の目標を設定しました。その後、4班に分かれ、ブナの原生林から玉原湿原までをフィールドとして、講師とともに活動を行いました。

本研修では、受講者の能動的な「気付き」を重視しました。受講者は、解説を受けながら観察するのではなく、提示された「ビンゴカード」の写

真やキーワードを手掛かりに、視覚だけでなく聴覚や触覚などの五感を活用して、高原内を観察しました。例えば、「紫の花」というヒントから湿原特有の植物である「タチギボウシ」を発見したり、「動物が木に登った跡」からブナに刻まれた「熊の爪痕」に気付いたり、「足の長い虫」というキーワードから小さな「ザトウムシ」を見付けたりするなど、カードに示された項目を基に、自ら発見する姿が見られました。その過程で、受講者同士で気づきを共有したり、講師に質問したりしながら、玉原高原の自然や特徴について理解を深めていきました。

また、研修では自然保護の視点についても学びました。玉原高原の植生や自然環境を維持するための具体的な手法について、増加傾向にあるシカの食害から植物を守る防護柵を実際に見学しながら解説を受けました。特にミズバショウへの被害が大きいのことから、自然を手付かずのまま残す視点の大切さに加え、人による適切な管理が自然環境の保全に大きく寄与していることについても、理解を深めることができました。

最後に、班ごとに研修を振り返り、観察を通して気付いた点や新たな学びを共有しました。受講者は振り返りの中で、ただ歩くだけではなく、立ち止まって視線を向け、手で触れ、匂いを嗅ぐといった具体的な行動の意義や、「生きた教材」としての自然の価値を改めて実感していました。

2025（令和7）年度の研修成果として、受講者は玉原高原の自然の奥深さを肌で感じるとともに、ビンゴカードを活用した「気づき」の共有という手法が、児童・生徒の知的好奇心や探究心を刺激

する有効な指導方法の一つであることを学びました。この体験的な学びは、座学だけでは得難い実感を伴った環境教育の教材として、学校現場で広く活用されることが期待されます。

今後も、持続可能な社会の実現に向け、多角的に考え主体的に行動できる人材の育成につながる研修を企画していきます。

【研修の概要】

見る・触れる・体験する環境教育研修講座

日 時：2025（令和7）年8月1日（金）

場 所：玉原高原

内 容：玉原高原の自然観察

講義・実習

「玉原高原の自然を観察する」

講 師：利根沼田自然を愛する会

楽迎員 濱田 誠

楽迎員 二川 真士

楽迎員 小林 薫

楽迎員 松井 孝夫

【関係業務】

自然・歴史・文化遺産研修

（小・中学校初任者研修）

郷土資源や文化遺産に触れることを通して、郷土に対する誇りと愛情を持つとともに教材的価値についての理解を深める。

日 時：2025（令和7）年7月29日（火）

場 所：県立ぐんま昆虫の森

内 容：「昆虫の森体験研修」



ビンゴカードを用いた観察の様子



研修後の振り返りの様子

第2項 環境情報の提供と共有化

1 調査研究の推進、成果の公表 【衛生環境研究所】

衛生環境研究所では、感染症・食中毒などの衛生・医療分野及び水・大気などの環境分野に関する調査・研究を実施しています。このうち、2025（令和7）年度に実施した環境分野の主な調査研

究のテーマは、表2-2-4-7のとおりです。これらの一部は環境省や文部科学省の競争的研究資金を獲得し、実施した研究です。

表2-2-4-7 衛生環境研究所における主な調査研究

	調査研究テーマ	内 容
1	環境DNAを用いたモニタリング技術の活用	環境DNA調査は、近年注目されている生物調査手法であるが、地方環境研究所では、技術的要件が導入・運用の障壁になる場合がある。そこで、本研究では、分析者の技量に依存しにくい手法を検討した。さらに、本手法を用いて多々良沼及び城沼において調査を実施し、従来法（捕獲調査）との比較を行った。その結果、既知の生息魚種の大部分が確認され、本手法の有用性が示された。
2	環境DNAを用いた淡水生物群集の網羅的調査手法開発（国立環境研究所、地方環境研究所）	環境DNA調査は、調査対象が特定の分類群（例：魚類）に限定される場合が多い。そこで、複数分類群（例：両生類、爬虫類、昆虫類等）を網羅的に調査する手法の開発を目的とした共同研究に参画した。また、共同研究参加者の分析技術向上を目的とした技術講習会に参加した。
3	県内河川の流域別汚濁負荷量調査と水質予測	将来（2030〔令和12〕年度）における各流域の汚濁負荷量及び各環境基準点のBOD推計を目的とした。各種汚濁負荷発生源データをGIS情報に基づく3次メッシュへ振り分ける方法を用いて推計したところ、いずれの環境基準点においても水質の改善傾向が予測されたが、環境基準達成率の向上には至らず、2030（令和12）年度の環境基準達成率は、2020（令和2）～2024（令和6）年度の実測値平均と同様の85.0%になると推定された。
4	連携プラットフォームを活用した環境流出プラスチックごみの発生抑制に資する研究（国立環境研究所、地方環境研究所）	環境流出プラごみの調査方法の共通化と実態把握調査を行い、データ共有と発生抑制効果の評価法を検討する共同研究に参画した。マイクロプラスチックの形状や色の判断等、調査方法の共通化について情報共有を行った。
5	広範なPFAS管理のための廃棄物・環境分析に関する研究（国立環境研究所、地方環境研究所）	PFAS分析法に関する相互検定研究を実施し、その技術普及を進めるとともに、情報共有のためのネットワーク構築を目的とする共同研究に参画した。2025（令和7）年度は、泡消火薬剤を用いた模擬試験水におけるPFAS相互検定に参加し、当所で測定したデータを提出した。
6	国内水環境における化学物質による生態リスクの特徴把握（国立環境研究所、地方環境研究所）	排出源別に、生態リスクに寄与する化学物質の割合を算出し、生態リスクの、地域や排出源別の特徴把握を目的とした共同研究に参画し、特にAIQS-GC（自動同定定量システム）に関する情報収集を行った。
7	大気粒子中の有害有機成分の測定とその影響評価	大気粒子中には、有害な有機成分が含まれることから、県内において未把握成分の汚染実態の把握を目的とした大気観測を実施した。観測は、季節ごとに実施し、多環芳香族炭化水素成分は一般環境においてPM2.5中の濃度を、タイヤ摩耗粒子成分は道路沿道で粒径別の濃度分布をそれぞれ調査した。
8	大気中反応性窒素の経年変化とその沈着量推計	大気中の反応性窒素（ HNO_3 、 NH_3 ）は、大気汚染だけでなく水環境にも影響するため、環境中における窒素動態の把握が求められている。本研究では、反応性窒素等の大気中濃度の変動及び大気窒素負荷量の評価を目的として、前橋市における反応性窒素等の濃度推移を解析した。さらに乾性沈着量を推計し、湿性沈着量を含めた大気由来窒素負荷量を求めた。
9	事業所周辺における有害大気汚染物質の濃度分布予測	群馬県では、化学物質の大気排出量の多い事業所周辺において大気環境調査を行っているが、調査の回数や地点数が限られるため、得られる測定値は限定的である。本研究では、METI-LIS（経済産業省-低煙源工場拡散モデル）を用いて拡散シミュレーションを行い、対象事業所周辺の化学物質の大気濃度分布を予測した。

10	光化学オキシダント等の有効な対策に向けた新たなデータ解析と効果的な大気環境モニタリングの探索 (国立環境研究所、地方環境研究所)	大気汚染物質モニタリングデータを活用し、光化学オキシダント (Ox) やPM2.5などの経年変化及び高濃度事象に対する発生源の影響把握と効果的なモニタリングを実現するための新たな知見取得を目的としている。Oxの環境基準改定を見据えたデータ解析や地域間比較、PM2.5ローコストセンサーによる測定検証などを行った。
11	ベトナム野焼地域での大気中プラスチック含有微小・ナノ粒子の実態と雨水への移行解明 ＜科研費国際共同研究強化B＞ (埼玉大学、国立環境研究所、中央大学、富山県立大学)	野焼きなどによる大気汚染が深刻なベトナムをモデルフィールドとし、大気中のプラスチック含有微小・ナノ粒子の実態把握と雨水への移行現象の解明を目的とする研究に参画した。当所は、大気粒子に含まれるプラスチック由来の指標有機成分の探索やそれらの分析方法を検討した。本手法を用いて日本国内の観測にも取り組んだ。
12	大気中粒子状物質とその成分が間質性肺疾患や膠原病疾患に及ぼす影響に関する研究 ＜科研費基盤研究B＞ (群馬大学、北海道大学、京都大学、京都府立医科大学)	大気中の粒子状物質とその成分が、特定疾患に及ぼす影響を検討し、病因の一端の解明に供することを目的とする研究に参画した。当所は、PM2.5データ解析を担当し、全国の常時監視PM2.5成分データなどを用いて、PM2.5特定成分の地域特性の解析を行った。
13	気候変動による暑熱・健康等への影響に関する研究 (国立環境研究所ほか)	熱中症予防対策に資することを目的に、県内各地の暑さ指数 (WBGT) と熱中症救急搬送者数の関係について解析を行った。群馬県では、WBGTが危険レベル (31以上) に到達する日が極めて多く、熱中症救急搬送者は、高齢者が多い。熱中症発症率は、暑熱順化の進んでいない梅雨明け前の方が梅雨明け後よりも高いことなどの状況が確認された。

(注) 調査研究テーマ欄の＜ ＞内は外部研究資金名、() 内は共同研究機関

2 群馬県環境サポートセンターの運営 【環境政策課】

小・中学校や地域などにおける環境学習や環境活動を総合的に支援するため、2003 (平成15) 年度に群馬県環境サポートセンターを開設しました。

センターでは、環境学習や活動に関する質問や相談の受付、実験器具等の貸出し、情報提供・発信、動く環境教室の運営、環境アドバイザーや子どもエコクラブの活動支援などを行っています。

【概要】

- ・設置場所 群馬県環境政策課内
- ・設備等 移動環境学習車 (エコムーブ号)、実験器具等
- ・情報発信 ホームページ (ECO ぐんま)、X (@ECO_gunma)

【2025 (令和7) 年度の利用状況】

- ・質問・相談件数 846件
- ・動く環境教室利用 92件

3 森林ボランティア等推進 【林政課】

森林環境への関心が高まるなか、多くの方に森林にふれる楽しみと森林整備の重要性を知ってもらうため、県民参加による森づくりを進めています。

県では森林ボランティア活動を推進し一体的な支援を行う拠点として、2014 (平成26) 年10月に「森林ボランティア支援センター」を開設し、作業時の安全対策・器具の取扱い講習会等の開催、森林整備作業器具の貸出しなどを行っています。

また、企業ボランティアでは、2025 (令和7) 年度末時点で、「企業参加の森林づくり」で33団

体 (34協定)、「県有林整備パートナー事業」で15団体が森林整備に取り組んでいます。

表2-2-4-8 森林ボランティア団体会員数 (単位：人)

年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
会員数	6,060	5,560	5,560	2,751	2,751

表2-2-4-9 企業ボランティア協定締結数

年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
締結数	41	42	44	45	48

4 こども環境白書の作成 【環境政策課】

群馬県の豊かな自然環境を守り、確実に将来に引き継いでいくためには、次代を担う子どもたちへの環境学習が重要であることから、2004（平成16）年度から環境白書の普及版として、こども環境白書を隔年で作成しています。

2025（令和7）年度に作成した最新版では、タブレット端末やパソコンで閲覧しやすいデジタルブックとしました。群馬県の環境などをデータやイラストを使ってわかりやすく整理するとともに、デジタルブックから直接、関連動画に遷移できる設定を行うなど、理解を深めるための仕組みを新たに取り入れました。

また、学校での環境学習の副読本として活用してもらうため、主に小学校4年生から6年生

の学習指導要領との整合に配慮した内容となっています。



ぐんまこども環境白書2026

5 環境情報ホームページ（ECOぐんま）の運用 【環境政策課】

県では、環境に対する理解を深めてもらうことを目的に、2012（平成24）年3月から群馬県環境情報サイト「ECOぐんま」を開設し、県内の環境に関する情報を発信しています。ホームページ内では、環境についてのイベント情報や家庭で取り組める温暖化対策、環境学習・活動の紹介等の様々なコンテンツを見ることができます。2019（令和元）年からは「ECOぐんま」のX（旧Twitter）を開設し、情報を拡散しています。

「ECOぐんま」ホームページアドレス

<https://ecogunma.pref.gunma.jp/>

「ECOぐんま」X（旧Twitter）アカウント

@ECO_gunma

(1) 掲載コンテンツとホームページ閲覧数

2025（令和7）年度は、県主催のイベントの告知や環境学習資料の掲載などを行いました。また、環境アドバイザーに対して会議の情報や会報も配信しています。本ホームページの閲覧数の推移は表2-2-4-10のとおりです。

表2-2-4-10 群馬県環境情報サイト「ECOぐんま」閲覧数（ページビュー数）（単位：回）

区分/年度	R3	R4	R5	R6	R7
閲覧数	216,745	223,000	170,251	211,038	191,527



ECOぐんまX（旧Twitter）



群馬県環境情報サイトECOぐんま